

最勝寺真宗関係史料 一括(12点)

最勝寺真宗関係史料

さいしょうじしんしゅうかんけいしりょう

分野／部門

有形文化財／歴史資料

所有者

宗教法人 最勝寺(さいしょうじ)

所在地

大阪市西区北堀江 1

紹介



最勝寺真宗関係史料のうち教如・下間了明書状

最勝寺は西区北堀江に所在する真宗大谷派(しんしゅうおおたには)の寺院である。『大坂惣末寺由緒書(おおさかそうまつじゆいしょがき)』によれば、住吉郡五箇荘(すみよしぐんごかのしょう)に創建、慶長 15 年(1610)5 代住持道了(どうりょう)の代に大坂市中の釣鐘町に移転し、その後現在の寺地に移ったと伝える。道了は、大谷派 12 世門主の本願寺教如(きょうにょ)に重用されていたようで、道了あての教如の書状をはじめ、石山合戦の時代の 16 世紀末から、大坂の陣後の 17 世紀前半の史料が伝来している。中世史料を含む、市域有数の真宗関係史料である。

用語解説

真宗大谷派(しんしゅうおおたには) 真宗の一派で、京都東本願寺を本山とする。

大坂惣末寺由緒書(おおさかそうまつじゆいしよがき) 寛文 6 年(1666)に編纂された、大坂市中の真宗寺院の由緒を記した記録。

住吉郡五箇荘(すみよしぐんごかのしょう) 現在の堺市北区の一部。

教如(きょうによ) 1558～1614 安土桃山時代～江戸時代初期の真宗の僧。本願寺が東西分派した際の大谷派 12 世門主。顕如(けんによ、1543～1592)の子。石山合戦末期に顕如を補佐した。